

ゆめ通信



まちカレ実行委員会ミーティング



3月1日~2日 全国まちづくりカレッジより

2~3 松本のまちを全国の大学生みんなで考える **魅力発見! 課題発見! ふしぎ発見!**

4 **学生発** 学生企画の地域連携活動

5 **地域発** 地域の発案 + 松大生が参加 = 思った以上のスゴイ効果!!

6 **地域発** 地域から松大生へ.....  

7 学生ゆめ

8 Information

考房『ゆめ』は社会貢献活動を行う学生を支援しています。地域の方からの「お願い」を松大生とともに創造しています!



地域づくり考房『ゆめ』キャラクター こう坊



学校法人松商学園
松本大学

“ゆめ”の由来…結芽「二つの芽を結ぶ場所」+夢+遊眼「遊び心の視点を持つ眼」
地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に活かしていくことを目指しています。

魅力発見！ 課題発見！ ふしぎ発見！

プレ全国まちづくり カレッジin松本



プログラム 3月1日・2日

1日目

- ・フィールドワーク（松本市街地探索）
- ・おやきづくり
- ・懇親会

2日目

- ・プレゼンテーション・マラソン
（地域活動のプレゼンで情報共有）
- ・記念撮影

全国まちづくりカレッジとは？

全国まちづくりカレッジ（通称：まちカレ）とは、学生と地域（商店街や商工会議所、地元市町村やNPO等）が協働したまちづくり活動に携わる、日本各地の学生や大学関係者及び市民がお互いに交流を図り、自分たちの日頃のまちづくり活動の学習や実践に結びつけることを目的に開催されるまちづくりの全国大会です。

今回は「松本大学まちカレ実行委員会」が主催し、松本市街地と松本大学を会場に148名が参加しました。松本は国宝松本城があり、その周りには様々な文化が顕在しています。その中でより良いまちづくりの魅力や課題、ふしぎを発見し、地元の課題解決に向けた提案をまとめました。また、信州の食文化で交流を深めました。



米山 あきほ
健康栄養学科3年

グループ毎に様々な食材を使っておやき作りを行いました（^^）
苺やイナゴなど驚きのおやきが沢山！
おやき作りを通して楽しく交流を深めることができました！



小池 翔太
観光ホスピタリティ学科2年

松本城見学を終えて帰ってくると...
いつの間にか門の前に甲冑を着た武士が!?
班の人たちは驚きつつも、武士と一緒にポーズを決めながら記念撮影していました！



原 侑子
観光ホスピタリティ学科3年

長野県の郷土料理を食べながら、交流を深めた懇親会！交流時間は少なかったけど、面白い人ばかりで話も弾んだし、料理も美味しかったし、とても楽しかったです(*^^*)

他大学とまちづくりを考えた2日間

大役を終えて

はじめて僕がまちづくりカレッジに参加したのは沖縄でした。その時は1年生らしく「沖縄に行ける！」くらいに思ってたんですが…。そんな僕が今年「プレ全国まちづくりカレッジin松本」の実行委員長を務めることになりました。はっきり言ってこんなに早く大きな役が回ってくるとは思っておらず自分に出来るのが不安でしたが、あっという間に準備期間の4カ月が過ぎ、まちカレは終わってしまいました…。

試行錯誤を繰り返しながら、たくさんの人からアドバイスを頂き、実行委員一丸となって準備し当日を迎えることが出来ました。

まちカレを行って得たものは「呼びかければ人は応えてくれる」です。

地域の人も、他大学の学生も、松本大学学生も、キッカケを作るだけで輪が広がっていく。そんな温かさを知ることができました。

(まちカレ実行委員長 高橋 健太)



まちの声を聞いて

フィールドワーク

松本の町を歩いて課題解決のためのアイデアを提案したフィールドワーク。地元の私達とは違った視点から松本の町を見て、たくさんのアイデアを出して頂きました。

松本がよりよい町になるようにと他大学の学生さんと意見を出し合えたことは、今後の自分たちの活動にも活かせるとても貴重な経験になったと思います。それぞれのプロジェクトで多くの意見やアイデアを出せるように今回の視点や考え方を大切にしていきたいです。



北原 沙智
健康栄養学科3年



目からウロコ…

プレゼン

プレゼンテーション・マラソン(略称:プレゼン)では、京都文教大学の学生が特産の宇治茶を用いて、お茶マップやお茶のキャラクターを作るなど、他大学の活動や地域づくりのアイデアを学びました。この事は、自らの活動での足りない事やいいところを改めて気づかせ、互いに良い刺激となり今後の活動への励みとなりました。

今回のプレゼンは動画に記録し編集を行い、地域の方々にもこのようなアイデアや活動を知って頂けるようネット上に配信し、情報を共有出来るようにして行きます。



梶原 悠
健康栄養学科4年



いちごのおやき!?

懇親会

懇親会とワークショップを複合したおやき作りでは、具にイチゴやイナゴ、チーズなど変わった具材を使っていたグループもあり、その発想にとっても驚かされました。また、参加した学生の楽しそうな笑顔が忘れられません。

参加した学生とはあまり深い交流はできなかったけれど、おやき作りや懇親会を通して皆さんの積極性を感じることができました。私も皆さんを見習ってその積極性を今後の活動に活かしていきたいと思います。



小林 早百合
健康栄養学科3年

学生企画の地域連携活動

地域づくり考房『ゆめ』では、学生の地域社会への興味・関心・問題意識の中から生まれた学生プロジェクトの活動の他、大学の部活・サークル活動による地域活動、講義での学びを活かして生まれた企画や活動を支援しています。

松本大学体験ツアー

手話を通じて聴覚障がい者への理解を広める
学生プロジェクト Sign



プログラム
3月15日(金)

- 11:00 受付、はじめの会、お茶会、大学案内
- 12:30 昼食 (フォレストホール)
- 13:30 交流 (アルバム作り)
- 14:15 終わりの会、お茶会、記念撮影

以前から交流のあった、聴覚障がい者のためのデイサービス「れんげ草」の皆さんとより深く交流したいという目的からこの企画を発案しました。普段は私たち学生が訪問して交流しています。今回は聴覚障がい者が普段の生活の中で不便に感じていることを実際に見て学びたい、また「れんげ草」の方々にも大学体験を通して大学生気分を楽しんでいただこう！という思いから大学案内、学食体験などを盛り込んだ「松本大学体験ツアー」を企画しました。

当日は、れんげ草スタッフの方も含め32名に参加していただき、6グループに分かれて案内しました。グループごとスムーズな進行を心がけながら学校の設備説明や、学食での注文の仕方など、事前に勉強した手話や身振り手振りで交流しました。

今回の活動を通して、聴覚障がい者の方々も普段の生活の中で感じている健聴者では気付かない不便さを学ぶことができました。体験ツアーを通じて健聴者の方々にもっと聴覚障がい者について知ってもらいたいと考えるとともに、自分自身の手話技術向上を目指したいと思いました。

市田 祥子 (総合経営学科3年)

松本大学サッカー交流大会

松本大学サッカー部



プログラム
3月30日(土)

- 8:50 開会式
- 9:00 練習 (部員による指導)
- 10:00 交流試合 (混合チームによる試合)
- 12:20 閉会式

僕らサッカー部は、松本大学総合グラウンドにて、松本市の小学3、4年生を対象にしたサッカー交流大会を開催した。松本大学が地域との交流を大切にしている、僕らサッカー部も何かできることはないかと考え、このサッカー交流大会を企画した。

当日は、松本市内の小学生サッカークラブの6チームが参加し総勢80名もの小学生が集まった。まず僕らは、所属チームがばらばらになるように8グループに分け、チーム毎に試合やトレーニングを行った。これには、子どもたちにコミュニケーション能力を高めてもらうという狙いがあった。はじめは、知らないチームの人と会話するのが拒んでいるように見えたが、しだいに子ども同士で会話をするようになり、友達の輪が広がっていったように感じる。こういった面からみても今回の企画は成功したように思う。

今回の活動ができたことは、サッカー部にとってプラスになったと思う。今後も継続して開催し、サッカー部の伝統行事になるように活動していきたい。

小松 克啓 (スポーツ健康学科2年)

社会討論会「地域社会再発見!!」

異世代交流「社会討論会」プロジェクトチーム



プログラム 2月11日(祝)

- 講演会「政治とは何か?」講師：小川仁志氏(政治哲学者)
- ワークショップ

グループワーク

- 1 まちの今 私の町ってどんな町?
- 2 いじめの問題について
- 3 若者の政治参加へのきっかけ作り

2月11日の建国記念の日に、社会討論会「地域社会再発見!!」が松本大学にて開催され、10~80代までの異業種の方30名が参加し意見交換しました。この会は講義「コミュニティリーダー」履修学生と考房『ゆめ』のプロジェクト「信濃X」の学生との合同による「異世代交流『社会討論会』プロジェクトチーム」が企画・運営しました。

私はグループワークで、「まちの今 私の町ってどんな町?」を担当しました。地域住民である「土の人」と、若者や他地域の方々である「風の人」が協力し、「土と風と行政との一体化した地域づくりの推進」が必要であるとまとめました。

3つのグループワークのまとめを長野県松本地方事務所と中信教育事務所の職員に提出し意見交換をしました。最終的には「まず自ら行動しましょう」との事でした。提言書でもまとめましたが、市民自ら動くのは当然ですが、行政が市民といかに協働して取り組むかが大切だと感じました。

私は4月から「ヤマト運輸株式会社」に就職しました。まずはヤマトマンとして荷物とそこに込められた人の思いを大切に運び、休日には地元駅の駅伝部の活動や松本大学の地域活動等に参加していきたいと考えます。

北村 健 (2013年3月卒業)

地域の発案+松大生が参加=思った以上のスゴイ効果!!

松大生さん
参加
しませんか?



みんなで乗ろう!バスと電車の交通ひろば

3月9日(土)
松本市花時計公園ほか

松本市内を走る公共交通の利用状況の改善を目的とする、松本市西部地域公共交通協議会主催の「みんなで乗ろう!バスと電車の交通ひろば」に人間健康学部の学生5名が参加しました。この催しは市民に公共交通に関心を持ってもらい、利用促進につなげるため松本市・NPO法人・信州大学生・松本大学生が協働で企画・運営しました。

公共交通の利用を見直すということ



参加を決めたきっかけは、上高地線や市内をめぐるコミュニティバス・タウンスニーカーなどの公共交通には、自分たちがまだ気づいていない良いことがたくさんあるのではないかと思ったからです。

私たちは主にスタンプラリーの企画・運営を任せていただきました。この活動は親子を対象にしたスタンプラリーを軸に、市民に公共交通に関心を持ってもらうことを目的としています。

バス停や駅にスタンプやミッションを置き、クリアした場所を点数化してプレゼントを渡すという企画です。初めの計画ではあらかじめいくつかルートを設定して回ってもらう予定でした。しかしそれではバスや電車の移動に興味を持ってもらえないことに気づき、当日はコースの設定をしなかったことで、参加者の皆さんにたくさんの場所を回っていただくことができました。

企画時に、実際にコミュニティバスに乗り、現在バスを利用している方の多くは高齢の方ということにも気づきました。この貴重な体験を通して、公共交通がもつ緩やかな時間の流れの重要性を再確認することができました。今後は利用者の方々に退屈させないバスや電車の雰囲気を考えていけたらと思っています。

パブリックバスチーム 松原大輝 (スポーツ健康学科3年)



地域の方

「大学生の参加で内容が楽しくなりました」

今回の企画は、大学生と協働で行うことで、学生自ら公共交通に対する理解を深め、幅広い世代を対象とした斬新な発想によるイベントになると思い、声をかけました。学業がある中で、忙しかったと思いますが、各自の役割をきちんとこなし、責任を持って企画運営にあたっていただけました。

従来の行政のイベントにない柔軟で楽しい企画に、マスコミにも多数取り上げられ、参加者にも楽しんでもらえるイベントとなりました。今回PRできた事で、公共交通利用促進の効果も期待できると思います。

松本市政策部 交通政策課 高野敬吾さん

新村地区の高齢者を対象とした「パソコン教室」

2月~3月(全3回)
松本大学にて

新村公民館主催の「新村パソコン教室」が開催されました。パソコンの得意な学生や新村で地域活動をしている学生11名が指導にあたりました。

パソコン教室を通して 新村地域への恩返し



パソコン初心者の方から中級者の方まで大学に来ていただき、ワード、エクセル、DVD編集の各チームにわかれ、学生が指導しました。各チームで指導プログラムをたて、責任を持って活動できました。学生1名につき1~2人を担当する形で進めることができ、参加された方からは「細かいところまで聞くことができた」と、満足していただきました。

大学がお世話になっている新村地域の皆さんに貢献したいという思いから始めた活動でしたが、実際に満足していただけた方が多くとても嬉しく思います。年の離れた、パソコン初心者の方々に教えるという経験はなかなかできることではないので、今回の活動は自分にとっても貴重なものになりました。

私はプロジェクトリーダーとして全体の進行や計画などを行いました。各チームごとうまく指導を進めてくれたので、スムーズな進行ができました。今回の経験をこれからの学生生活にも活かしたいと思います。

参加者の方からは、パワーポイントや年賀状を作成したり、メールを送受信したいなどの希望が出ましたので、これからもこの活動が継続するのであれば私もやってみたいと思います。

林大輔 (総合経営学科2年)



地域の方

「教え方が親切、またお願いしたいです」

新村地区公民館・福祉ひろばが、松本大学と連携し、地域交流を深めるために企画しました。地域住民にとって家庭や身内では教わりにくいパソコン操作を大学生から学ぶことは、若者とふれあうよい機会になるのではないかと考えました。

プログラム企画・指導は大学生にお願いしました。受講者は新村地区住民13名で大半が高齢者でしたが、新鮮な気持ちで大学に向く事ができたようです。「親切丁寧に教えていただけた」と好評で、また次回もお願いしたいと声が上がっています。

松本市新村公民館 金山博文さん



考房『ゆめ』には、地域の皆さんから「学生と一緒に活動したい」「手伝ってほしい・参加して欲しい」等の依頼が多数届きます。学生は各々の興味・関心・特技を活かしてこれらの地域活動に参加しています。今年も早速、新1年生や大学生活最後の年を迎える4年生が活動に参加しました。



個人参加

もっと積みたい施設での体験

介護老人保健施設 「山望苑」おさんぽボランティア



私が山望苑での活動を希望した理由は、高校生の時の老人ホームでのボランティア活動で、利用者さんとのふれあいの中で、お年寄りの素敵な笑顔を見ることに喜びを感じたことがきっかけです。

活動内容は授業の空いている時間に、利用者さんと松本大学周辺を一緒にお散歩するというボランティアです。私はこの活動を通じてお年寄りの現状を知りたいと思っています。また、私は将来高齢者施設の管理栄養士になりたいので、利用者さんの食事についての生の声を聞きたいと思っています。

今後も、山望苑でのボランティア活動を続け、職員の皆さんや利用者さんとの繋がりを大切にしながら、施設の行事にも参加できたらいいなと思っています。また、活動の中から自分の足りないところが見えてくると思うので、大学での勉強や生活に繋げていきたいと思っています。

大塚 智加 (健康栄養学科1年)

通訳として役立った喜び

第16回スズキ・メソード世界大会 ボランティアスタッフ



スズキ・メソード世界大会は、世界中の子どもたちが集まり、音楽のみならず交流を通じて新たな絆を結び深めることを目的に開催され、世界35カ国約5,400人が集まりました。私は国際的なイベントに興味があり、海外に住んでいた頃に身につけた語学力を活用できないかと思い、ボランティアスタッフとして参加しました。

当日は来日した外国の方々の受付で、通訳ボランティアとして活動しました。実際にコンサート等に行く事はできませんでしたが、受付で待機しているだけで、まるで世界中から人々が集まる国際空港に入ったかのような不思議な感覚を覚えました。今回のイベントで、久しぶりに自分の生まれた国の方々とも話をすることができ、通訳をすることで彼らの手伝いもできました。参加をした時間はそれほど長くは無かったのですが、短い時間をさらに短く感じるほど非常に楽しい時間を過ごせました。こういった国際的なイベントでは、言葉が通じないという事は一番困る事です。もしもこういったイベントがあれば時間が許す限り参加したいと思っています。

角田 優美子 (観光ホスピタリティ学科4年)

気持ちの変化

みすず屋での交流



最初は「友人に誘われたから」という理由でなんとなく活動に参加しました。活動内容は主に大学のすぐそばの「みすず屋」という場所での地域の方との「おしゃべり」です。私は人見知りな直す良い機会だとも思いましたが、あまりしっかりとした意見は持っていませんでした。しかし「みすず屋」に行くといつも誰かしら居てくれて、私たちにたくさん昔話をしてくれます。私はそれが単純に嬉しくて、そこで初めて「この活動にしっかりと参加しよう」と思いました。

遅い出発点です。すると色々な課題も見つかってきました。私個人が思うのは、「私は楽しめているけど、地域の方や仲間たちと、この楽しい気持ちを共有できているだろうか?」というものです。

私は今後、この考えを軸に、より楽しく、よりアットホームな「楽しい縁側」づくりを考えていきたいと思っています!また、七夕などの行事も、ゆくゆくは考えていきたいです。私たちも楽しめて、地域の方も楽しめる良い関係を築いていきたいと思っています。

上條 陽子 (観光ホスピタリティ学科1年)

グループ参加

子どもたちの理科への興味を高める

春休みえんぱーくサイエンス教室 ボランティアスタッフ



3月21日(木)塩尻市主催による「春休みえんぱーくサイエンス教室」が開催され、松本大学学生3名がスタッフとして参加、54名の小学生と一緒に活動しました。

私達が住んでいる塩尻市では、子どもの理科離れが心配されています。少しでも理科に興味を持ってもらおうという考えから、身近にあるサイエンスをテーマに教室が企画され、私もボランティアスタッフとして参加しました。

教室は、塩尻市がワインの産地ということで、ワイングラスを使った楽器「グラスハーブ」を体験し、音について科学的目線で学ぶという内容でした。先生の音についての説明や超音波の実験を見たり、自分たちもグラスハーブを鳴らしてみながら音階順に並べて音の調律をし、各グループで「かえるの歌」や「きらきら星」を演奏し盛り上がっていました。

参加した子どもたちは、グラスから鳴る音に興味を持ち、積極的に取り組んでいました。私達は各グループに一人ずつ付き、子どもたちの実験の補助役として参加しました。年齢が近い私達が参加したことで、子ども達が積極的に実験に参加しやすい雰囲気を作ることができたと感じています。

今回の活動は小学生を対象に開かれました。私達にとって、普段関わりが少ない年代の子ども達と一緒に活動するのはとても新鮮で、子どもへの接し方を学ぶこともできました。次回はものづくり教室を行う予定なので、企画から参加していきたいと思っています。

武居 美咲 (観光ホスピタリティ学科3年)

松大生がつくる情報誌
ヴォレーレ
Volere!! vol.2 Check!!
完成しました♡

私たちゆめ通信編集委員が製作する「Volere!!」の第2号を今年度も発行することができました! Volereとはイタリア語で「～したい」という意味です。この冊子を見て「～してみたい!」と思ってもらい、生活を充実させてもらえたらうれしいです。今回は第1号で出た課題をふまえ、より見やすく・わかりやすくなっていると思います! ぜひ手に取ってみてくださいね!

楽しみいっぱい!!
・松本市のお店紹介
・おすすめスポット紹介
・松大生事情...etc

TAKE FREE!
Volere!!

新年度が始まり、2ヶ月が過ぎました。新入生の皆さん、そろそろ新生活には慣れてきたでしょうか? 今回の学生ゆめでは、新入生に向けて行われた「ゆめカフェ」や、私たちゆめ通信編集委員が製作した「Volere!!」についてお伝えします。また、4月からゆめ通信編集委員が新たに5名加入しました! それぞれの意気込みも必見です★



ゆめカフェとは??

松本大学の新生に考房『ゆめ』で行われている活動について、実際に活動しているプロジェクトのメンバーが直接説明を行う場。活動紹介を通じて新しいメンバーを集めることを目的としています。今回は4月に行われた「ゆめカフェ」について企画・運営を行った学生スタッフリーダーの塩原さん(観光ホスピタリティ学科4年)にお話を伺いました。

★学生スタッフは…学生の地域活動をサポートしています。



Q. ゆめカフェで工夫したことは何ですか?

プロジェクトの皆さんに「新メンバーを集める」という意識を高めてもらうことです。今までは学生スタッフがメインで一日おきに2週間ぐらい開催していたのですが、今年度はプロジェクトの皆さんがメインで2日間行いました。

Q. ゆめカフェで一番心がけていることは何ですか?

活動紹介を具体的に分かりやすく説明することです。新入生は考房『ゆめ』について全く分からないので、例えばプロジェクトで製作した物があたら具体的に提示してイメージできるように心がけています。



Q. ゆめの活動を通じて学んだことは何ですか?

企画力や上に立つことの大変さを学びました。そのなかで仲間と一緒に活動することの大切さも学びました。

Q. 「何か始めたいかも…」と迷ってる学生へ

不安な気持ちもあると思いますが、なにかやってみたい! という気持ちが大切なので重く考えずに気軽に来てください!

“ジュンブライド”の由来

6月と言えば「ジュンブライド」という言葉をよく耳にしませんか?
今回はその由来について調べました(^o^)

6月の月名JUNE(ジュン)がローマ神話の婚姻や女性の守り神であるJUNO(ジュノー)に由来するため、この月に結婚をするとJUNOの神の守護の元幸せになるだろうという説が強力です。

また、ヨーロッパでは3~5月は農作業のため結婚が禁止されていました。そしてひと段落した6月に一斉に待ちわびたカップルが結婚したため、祝福も大きかったようです。

さらにヨーロッパの6月は晴天が最も多く、結婚式も明るく祝福ムードに包まれたといわれています。

ゆめ通信編集委員に新たに5名のメンバーが加入! 初編集を終えて…

初めての活動でしたが、楽しく作ることができました。これからいろいろなアイデアを出せるよう頑張ります。
(市川 美奈子 / 商学科)

相手の魅力を引き出せるようなインタビューができるようになりたいです。皆さんと協力して楽しくゆめ通信を作っていきたいです。
(中村 葉月 / 経営情報学科)

今回はあまり編集会議に参加できませんでしたが、これから編集委員の皆さんと協力してゆめ通信を作っていきたいです!!
(百瀬 香織 / 商学科)

初めての編集は難しかったです。魅力的なゆめ通信を製作できるように頑張っていきます。
(伊藤 悠太郎 / 観光ホスピタリティ学科)

楽しく作ることができました!! 次は記事を書けるように頑張ります(♡)
(栗原 楓 / 商学科)



平成25年度
松本大学地域づくり学生チャレンジ奨励制度
第1期認定プロジェクト決定

松本大学は、学生自らも成長し、地域活性や社会貢献にもつながる、学生による地域づくりの活動を募集し、選考の上、上限10万円の助成を行っています。今年度から審査会を2回実施し、3月末は、右記の通り決定しました。第2期審査会は9月に実施する予定です。応募資格と詳細については考房『ゆめ』にあるチラシをご覧ください。

認定プロジェクト名	助成金額
★Sign	26,000円
★築夢屋プロジェクト	56,000円
★こどもあそび隊	62,000円
★キッズスポーツスクール	68,000円
★ええじゃん栄村	45,000円
★ゆめ通信編集委員	65,800円
★ヘルシーメニュー	70,000円



ちくむや
“築夢屋直売所”
オープン!!

地元の安全・安心な有機農法による新鮮野菜・果物・加工品をお届けする“築夢屋直売所”が松本市下新交差点近くの『茶運堂』をお借りして開店します。

- 開店日：6月24日(月)・7月8日(月)
7月22日(月)
15:30~17:30

- 活動内容：①自分たちが育てた野菜の販売
②地元生産者が育てた野菜・果物・加工品・みそせんべいの販売
③希望者への配達サービス



参加者募集

キッズスポーツスクール

3歳から6歳を対象に子ども達にからだを動かす楽しさを伝え、スポーツ好きになるためのサポートをします。学生がサッカーやボール遊び、鬼ごっこといったスポーツやレクリエーションを考え提供します。

- 開催予定日
6/22・7/6・7/20
8/24・8/31・9/14
9/28・10/5・10/26
11/30・12/14・2/15
3/1・3/15
- 場所：松本大学

※開催日前日までに
お申し込み下さい。

参加者募集

松本大学こども広場

1歳から5歳を対象に親子・親同士のコミュニケーションづくりの場として、こどもあそび隊が企画運営します。季節の行事にあわせた工作・体あそび、絵本の読み聞かせ等を行っています。

- 開催日：7/6・9/28・12/14・2/8
- 場所：松本大学

※開催日1週間前までにお申し込み下さい。



スタッフ募集

無料こども塾

子どもたちにも生活困難のための格差が広がっています。子どもたちの学びをサポートし、道を切り開くための応援を一緒にしていくスタッフを募集しています。

- 日 時：毎月第2・4土曜日 13:30~15:30
- 場 所：あがたの森文化会館
- 内 容：小・中学生・高校生を対象に学習支援を行う
- 主 催：反貧困セーフティネット アルプス

※申し込み・詳細は考房『ゆめ』まで



スタッフ募集

わおん♪自然探検隊2013
ネイチャーキッズ(夏休みキャンプ)

子どもたちが自然体験活動を継続して行うことにより、自然や環境に関心を持つきっかけとなります。また、キャンプを行うことにより、日常を離れた体験ができます。企画・運営をしながら、子どもたちと一緒に活動する学生スタッフを募集しています。

- 内 容：小学校3年生~中学校3年生までを対象とした自然体験活動とキャンプ
- 求められる：子どもと関わるのが好き、自然体験活動に興味がある学生
学生像

※申し込み・詳細は考房『ゆめ』まで

つぶやき

私は、松商短期大学部に入学して、築夢屋プロジェクトに参加しました。築夢屋は昨年、安曇野市三郷にあるあづみ野フルーツらんどから果物を仕入れて販売していました。挨拶と顔合わせを兼ねて、5月4日に築夢屋メンバー7名で、あづみ野フルーツらんどの開園祭に行ってきました。とても大きな果樹園で、リンゴの白い花がたくさん咲いていて、すごく綺麗でした。この花が秋になったらリンゴの実を付けるのかと思うと、わくわくしました!

手作り料理を味わったり踊りを見たり、楽しい時間を過ごさせてもらいました。

今年は草取り、花付けや摘花などのお手伝いに行く予定です。私も地域の方々と楽しみながら活動していきたいと思います!

石田 かすみ (経営情報学科1年)

お問い合わせ、ご意見等は下記へご連絡ください。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

松本大学 7号館 2F

T E L : 0263-48-7213 (直通)

F A X : 0263-48-7216 (直通)

E-mail : community@matsu.ac.jp

U R L : http://www.matsu.ac.jp/matsumoto_u/yume/

※開館日時：火~金 9:30~18:30
月・土 9:00~16:00